

ヒットネット [HITNET] ミニ企画展

第4回

日本の海運博物館

—日本の産業技術—

産業技術のおもしろさを感じてみよう!



国立科学博物館

産業技術史資料とは

「産業技術史資料」とは、日本の産業技術の歩みを示す実物の資料をいい、日本全国にある産業系博物館などが所蔵し、それらのうちの多くが一般に公開されています。これらの産業技術史資料から、私たちの生活を豊かにしている産業技術のはじまりや移り変わり、当時の技術者や職人たちの創意工夫の跡を見ることができます。

産業系博物館の展示分野

◆映像・情報、コンピューター



◆電気、電力



◆産業用、業務用機器他



◆自動車・船等、汎用器械



◆金属



◆化学、印刷



◆繊維・紙・木製品



◆鉱業、建設、窯業



◆食品、農林漁業



◆その他、サービス業等



琴平海洋博物館（海の科学館）《香川県琴平町》

海の神様こんぴらさんの麓にある海事博物館



金刀比羅宮の表参道の石段を22段上って左折すると個性的な外観の博物館があります

- 海と航海安全の神様として古くから信仰されている金刀比羅宮（こんぴらさん）の表参道脇にあり、海と船をテーマに、触れて、楽しく学べる博物館です。
- エントランスは江戸時代のこんぴら船の船着場を再現。1～5Fの各フロアでは様々なテーマで船と海の面白さを紹介しています。屋上の動くブリッジ（操舵室）からは、金刀比羅宮と遠く瀬戸内海を一望できます。

●香川県仲多度郡琴平町953
●電話：0877-73-3748
●<http://www.kaiyohakubutukan.sakura.ne.jp/>



こんぴら参りとこんぴら船



エントランスに展示されたこんぴら船

金刀比羅宮は海の神様として、古くから船乗りたちの信仰を集めていました。江戸時代になると、一般の人々へも信仰が広がり、伊勢神宮の「伊勢参り」と並び、金刀比羅宮の「こんぴら参り」も人気を集めました。金刀比羅宮への参拝客を運ぶため、大坂と讃岐（香川県）丸亀等との間に「こんぴら船」という客船がたくさん行き来していました。

通常、大坂から丸亀まで、3日から5日もかかったんだよ



こんぴら船は帆で走るんだね

むかしの海運 弁財船とこんぴらさん



弁財船（金毘羅丸）

江戸時代、日本は商業が発展し海運も盛んになりました。江戸と大坂を結ぶ「菱垣廻船」、「樽廻船」や、蝦夷地（北海道）と大坂を日本海経由で結ぶようになった「北前船」など、「弁財船」が盛んに各地を行き交いました。菱垣廻船では木綿・油などの日用雑貨、樽廻船では主にお酒を運びました。北前船では、大坂から蝦夷地へ向かう「下り荷」として塩やお酒、たばこ、衣類などを運び、帰りの「上り荷」として、数の子、昆布や鱈のしほりかす（肥料）などを運びました。そして、弁財船の船主や乗組員は、金刀比羅宮に航海の安全を祈願しました。

高田屋嘉兵衛
(1769～1827) など
海運で財を成した
大富豪が誕生したんだ



日本郵船歴史博物館

《神奈川県横浜市》

日本の経済成長と共に歩む総合物流企業の歴史展示



1936 (昭和11) 年竣工の横浜郵船ビル1階部分を2003 (平成15) 年に博物館として改修しました

●日本郵船株式会社は1885 (明治18) 年に創業し、昨年、130周年を迎えました。かつて海外航路で活躍した客船や、日本経済を支えた貨物船など、日本郵船の歴史を通じ、日本海運の近代化と総合物流を紹介する博物館です。

●戦前の貴重な資料や船舶模型などを展示するとともに、クルーズ客船「飛鳥II」をはじめ、コンテナ船や自動車専用船、LNG (液化天然ガス) 船など現在の物流で主役として活躍するさまざまな船舶を紹介しています。

- 神奈川県横浜市中区海岸通3-9
- 電話：045-211-1923
- <http://www.nyk.com/rekishi/>



日本の近代海運のはじまり



乗船の図 (『郵船図会』より) [明治末]

明治の始め、開国間もない日本では、日本の主要都市と海外を結ぶ航路を外国の海運会社が運航していました。これに対し、富国強兵・殖産興業を推し進める日本政府は、国内海運業の育成を計りました。

また、貨物と旅客輸送に併せて、郵便制度の確立のため、国内航路の整備にも力を注ぎました。

国内航路や鉄道網が充実したおかげで、日本全国に低料金で手紙を出せるようになったんだよ



海運は、郵便制度にも関係していたんだね

海外にこぎだした日本の船



竣工当時の客船 浅間丸 [1929 (昭和4) 年]

明治後半 (19世紀末)、日本郵船をはじめ国内の海運会社が成長し、日本の船が世界へと航路を広げていきました。日本郵船は、日本で初めてボンベイ航路を開設し、欧州航路や米国航路などを相次いで開設していきました。

また、19世紀末から20世紀前半の技術革新で、蒸気機関がディーゼル機関に変わるとともに船舶の大型化が進み、貿易と人々の渡航がますます増えていきました。

第1次世界大戦後、日本は世界第3位の海運大国へと成長したんだ



神戸海洋博物館

《兵庫県神戸市》

日本を代表する港湾都市神戸が誇る海洋博物館



帆船の帆と白い波をイメージした建物は、神戸港のシンボルとして親しまれています

●神戸港の開港120年を記念して、1987（昭和62）年に開館した大規模な海洋博物館です。船の仕組みや魅力、神戸港の施設や歴史など海・船・港を総合的に紹介し、むかしの和船や西洋帆船から現代の船まで、充実した船舶模型を展示しています。

●屋外では、阪神・淡路大震災で壊れたメリケン波止場の一部を「神戸港震災メモリアルパーク」として保存し、震災の記憶を伝えています。

- 兵庫県神戸市中央区波止場町2-2
- 電話：078-327-8983
- <http://www.kobe-maritime-museum.com/>



天然の良港・神戸港



平清盛と大輪田泊の展示

神戸港は穏やかな天候と海流に恵まれ、干満の差も小さいことから古くから良港としてにぎわいました。平安時代以後、中国大陸や朝鮮半島との貿易で栄えました。江戸時代には大坂・兵庫津（神戸港）と江戸を結ぶ菱垣廻船や樽廻船、蝦夷地（北海道）を結ぶ北前船の拠点として常に活気あふれる港でした。

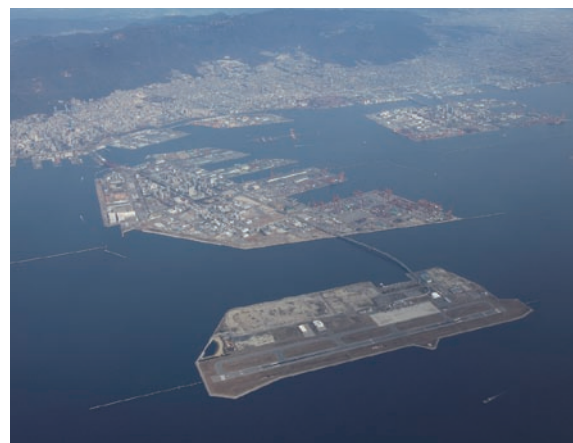
そして、神戸港は1868（慶応3）年に開港し、国際貿易港として発展しました。

平清盛のおかげですね

平安時代、大輪田泊を改修して港が発展したんだよ



経済大国日本を支える神戸港



神戸港

適度な水深をもつ神戸港は、大型化する船舶に適し、埋め立てと埠頭の新設により港の規模を拡大し、東京港・横浜港とともに世界有数の貿易港に発展しました。

1950年代、海運に革命をもたらしたコンテナ化にいち早く対応し、神戸港は日本で初めてコンテナ専用ガントリークレーンを設置するなど、海運の進化に対応して日本を代表する貿易港であり続けました。1995（平成7）年に発生した阪神・淡路大震災の被害を乗り越え、今日もなお日本の物流を支えています。



神戸の水は、赤道を越えても腐らない水として重宝されたんだよ

函館市青函連絡船記念館摩周丸《北海道函館市》

青森と函館を結ぶ大動脈で活躍した青函連絡船



摩周丸は青函連絡船の乗り場だった旧函館第二岸壁に係留されている博物館船です

- 摩周丸は、1965(昭和40)年に就航した青函連絡船で、旅客定員1,200人、貨車48両と自動車12台をの載せ、青森-函館間を往復しました。1988(昭和63)年、青函トンネルの開通に伴い役目を終えました。
- 摩周丸は引退後、博物館船として保存され、公開されています。現役当時の操舵室・無線通信室などが見学できるほか、一部を展示室に改装し、青函連絡船の歴史や車両航送のしくみを解説しています。

- 北海道函館市若松町12番地先
- 電話：0138-27-2500
- <http://www.mashumaru.com/>



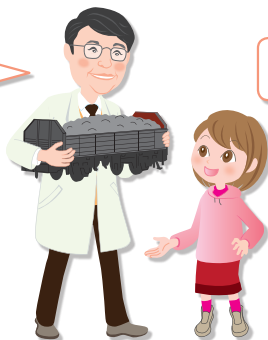
世界でも珍しい大規模「車両航送」



船尾から貨車を積み込むようす

北海道開拓の本格化とともに、本州-北海道間の輸送力の増強が求められました。1925(大正14)年、連絡船の中に線路を敷き、貨物列車を丸ごと積み込む画期的な「車両航送」がはじまりました。これにより、貨物の積み降ろしの時間が大幅に短縮され、輸送力が向上しました。北海道から全国に水産物や農産物が大量に運ばれ、北海道の産業に大きく貢献しました。

貨車ごと積んだ方が合理的だからね。積み降ろし時間が短くなり、荷物を壊したりする事故がなくなったんだよ



船の中に貨車が飲み込まれていくね

高度成長を支えた青函航路



乗客でにぎわう船内

戦後、日本の経済は急速に復興し、高度成長期を迎えて、青函連絡船の需要もますます高まりました。増え続ける輸送量に対し、新造船を次々に増やし、貨客船7隻に加え貨物専用船が6隻も造られました。1971(昭和46)年度には貨物輸送量855万トン、1973(昭和48)年度には旅客数499万人を記録し、最盛期を迎えました。1972~73(昭和47~48)年には、貨物専用船を含めて13隻体制で、1日30往復していました。

1988(昭和63)年、青函トンネルにその役目を譲るまで、青函連絡船が高度成長を支えたんだよ



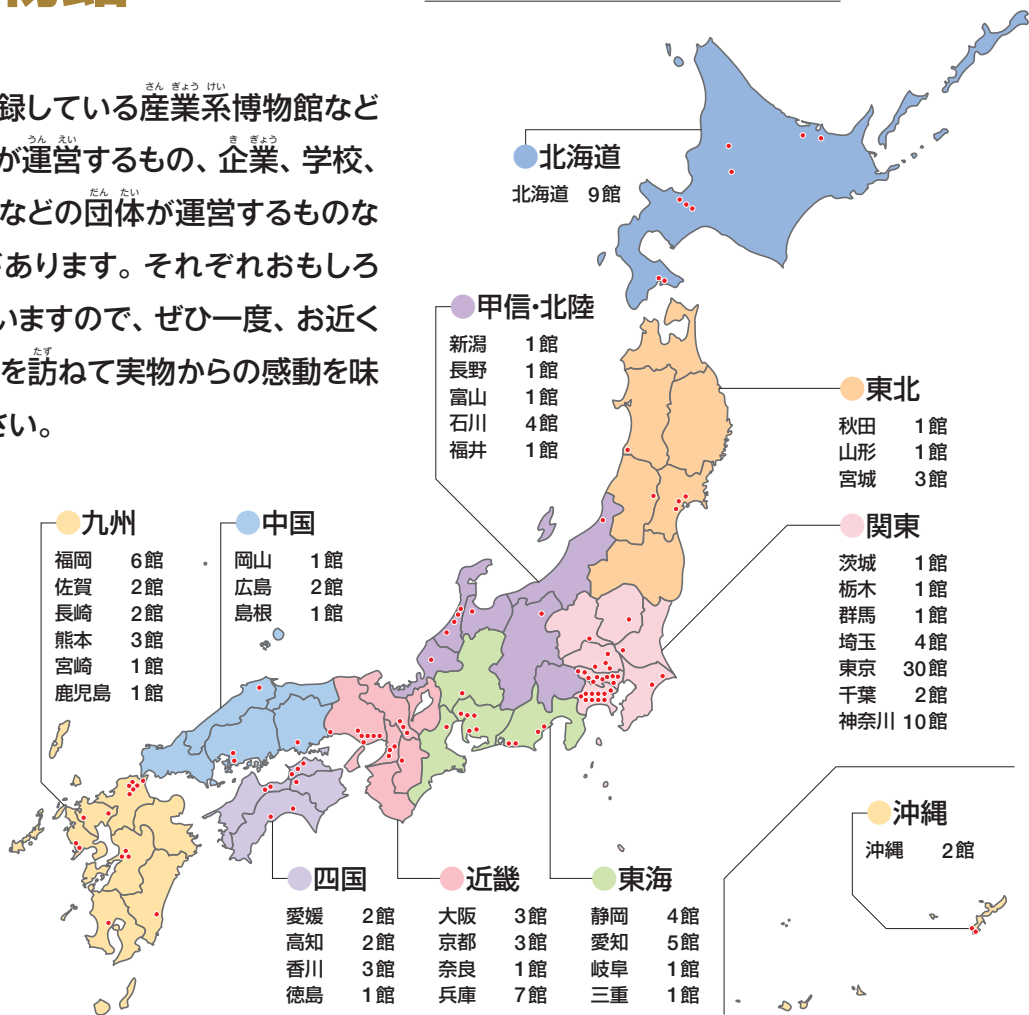
ヒットネットの 登録博物館

◆博物館所在地

ヒットネット登録博物館数 **125館**

ヒットネット登録資料件数 **約24,200件**

ヒットネットに登録している産業系博物館などは、地方自治体が運営するもの、企業、学校、各種協会・財団などの団体が運営するものなど様々な形態があります。それぞれおもしろい展示を行っていますので、ぜひ一度、お近くの産業系博物館を訪ねて実物からの感動を味わっててください。



ヒットネット ▶ <http://sts.kahaku.go.jp/hitnet/>



国立科学博物館

National Museum of Nature and Science

第4回 ヒットネット [HITNET] ミニ企画展

日本の海運博物館 —日本の産業技術—

主催 独立行政法人国立科学博物館

共催 琴平海洋博物館(海の科学館)

日本郵船歴史博物館

神戸海洋博物館

函館市青函連絡船記念館摩周丸

開催期間 平成28年3月1日①～4月17日②

開催場所 国立科学博物館 地球館2階

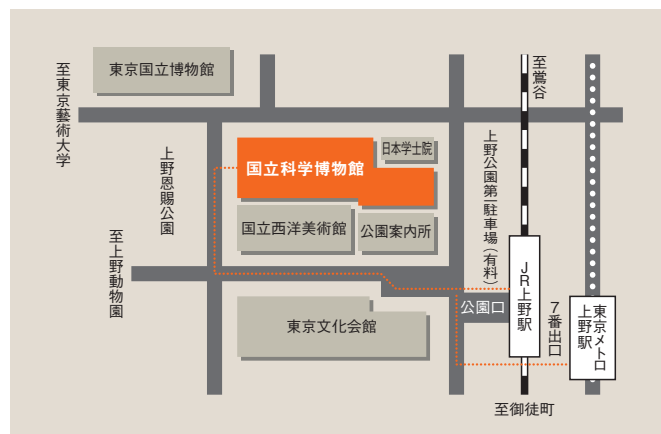
東京都台東区上野公園7-20

[香川県琴平町]

[神奈川県横浜市]

[兵庫県神戸市]

[北海道函館市]



【編集・発行】国立科学博物館 産業技術史資料情報センター
国立科学博物館 ©2016

本誌に掲載された記事、写真、図版等を許可なく複製することを禁じます。